

プラスチック資源循環戦略小委員会（第5回）に当たって

平成31年2月22日
慶應義塾大学経済学部教授 細田衛士

第5回小委員会開催に当たって、下記のとおりコメントします。

記

プラスチック資源循環戦略案にある各項目について、多数のパブリックコメントが寄せられたことは、プラスチックの資源循環や海洋プラスチック問題への国民の関心の高さを表していると理解している。そして速やかに問題に対処すべき時が来ていると痛切に感じている。

論点によっては賛否が分かれているものもあるが、こうした国民的な関心やG20などの国際的議論を背景に、あらゆる主体が連携協力してプラスチック資源循環を進めるための絶好の好機と捉え、まずは一歩前に進むべく、本戦略で大きな方向性を速やかに定めた上で、具体的な対策づくり、政策展開を急ぐべき時にある。

戦略案に示された方向性に大筋異論はない。

なお、その際には、プラスチック原料化学メーカーから最終消費者までのサプライチェーン、国・地方自治体、NGO等の様々な主体が、それぞれの果たすべき役割を的確に担い、また、技術・システム・ライフスタイルの不断のイノベーションにより、社会全体を通じて最適な形でプラスチック資源循環が行われる道を模索し、その道を歩んでいくべきであると考えます。

(以上)